

## 東アジアの成長を生かした活力ある国土形成の現状と課題（論点）

### < 主な資料のポイント >

1. 東アジアと日本の相対関係の変化（経済、産業面等）
2. 東アジアと日本の交流に影響を及ぼす事項の動向（FTA、文化等）
3. 各地域の国際的な魅力、競争力を高める産業や知的資本等の域内連携実態
4. 各地域の特性を生かした東アジアとの交流の実態

- ・ 東アジアを含む世界の大部分の地域で人口は増加しているが、ASEAN を除く東アジアでは少子化が進んでいる。
- ・ 東アジア諸国は急速な経済発展が進んでおり、技術レベルの進展も著しく、電機・電子など技術レベルの高い産品を生産するようになってきている。
- ・ 一人当たり GDP も伸びており、マーケットとしての魅力が増している。
- ・ FTA、水平分業、観光需要の増大など今後国際交流の一層の深化が見込まれる。
- ・ 我が国の各地域ブロックはヨーロッパ中規模国並のポテンシャルを有する。
- ・ 我が国への外資系企業の進出は少なく、特に地方圏へはほとんどない。
- ・ IMD の国際競争力ランキングでも順位を下げており、特に産学連携や新規起業のランキングが低いとされているが、その対応が緒についたところ。
- ・ 我が国各地域と東アジア諸国との結びつきは、既にある程度特長ある交流がなされている。

### < 主な論点 >

成長する東アジアの一員として活力ある国土形成を図るため、各地域ブロックの特性を生かした東アジアとの交流・連携戦略を考えていくことは必要か。また、どのように考えていくべきか。

1. 東アジアと我が国の相対関係の変化についてどうとらえるべきか？
2. 国際交流の進展・阻害要因とその影響についてどうとらえるべきか？
3. 地域ブロックで見た東アジアとの連携の状況は進んでいるか？
4. 広域国際交流圏の進展はどう評価すべきか？